

ブルーベリー



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
[9月中旬] 収穫直後の礼肥	根の早急な回復 秋の養分蓄積	●根っ酵素1ℓを1000倍以上に薄めて灌水または800倍を葉面散布 ※もし樹勢が弱ければ、ラクトバチルス300g、硫安5kg、田畑の大将(赤)5kgを散布。
[10月] 元肥 礼肥と元肥を かねた施肥 礼肥を早く与えた 場合は [12月下旬~1月] 休眠期に元肥を 施す 元肥を分施する 場合は ①[11月上旬] 紅葉期の前に 半量 ②[12月下旬~1月] 休眠期に半量と する	基本的な土作り、 樹体の基礎栄養の 準備を ※チッソ過多による 遅伸びが心配な場 合は、休眠期に入 ってから施肥 ※土壌pHの大幅な 調節(酸性化)は 休眠期に行うのが 無難 ※落葉期は11月中 旬~1月中旬で、品 種により違う	●ラクトバチルス600g →土の化学的安定、団粒化、保水・通気性 ●硫安10kg(真砂土や赤土に)、硫安20kg(深い黒ボク土に) ※ブルーベリーへの施肥は硫安が最善。決して硝酸態チッソを施さない 事。アンモニアを硝酸に変えずにアミノ酸化し、ECを上げない為には ラクトバチルスを混ぜて施用する事が必須。(他の肥料の場合も) ※真砂土で有機物マルチが分解しない場合は、硫酸カリ5kgを追加。 ●田畑の大将(赤)20kg(1本当り100g) ※カルシウム、ミネラルとイオウを安全、効果的に栄養分として補給する。 ※ブルーベリーは好酸性で、土壌pH:4.5~5.5が適切。 (ハイブッシュは更に低pHで、4.0~5.2と言われている) 下記の2つの方法の組合せで低pHを保つのが土と根の為に最善。 ①田畑の大将(赤)により土壌pH:5.5~5.7程に安定させる。 なお土壌pH:5.7以上の場合、10アール当り30kg施せば、pHは 0.3ほど低下(酸性化)する。(イオウ粉末と違い、根を傷めない) ②有機物マルチにピートモス(酸性中和していないもの)を使ってpH を4.5~5.5に低下させる。ただし他の材料とよく混和する事。 ●敷きワラ(有機物マルチ)の補給(5~10cm厚ほどに) ※木質(おがくず等)、モミガラはチッソ吸収に注意。稲ワラ、麦稈、青刈り 牧草等はCN比:35前後と適切ですが、これは分解すると(地力的な)肥 効となるので、徒長防止の為にはカルシウムの併用(増量)が必要。
[3月] 春肥(芽出し肥)	春の葉・枝と花に 栄養分を供給	①[2月下旬]根の活動開始より前に ●マンゾク粒状10kg→根を動かす ②[3月中旬]葉芽の発芽、展葉、花芽の催芽に、バランス良い春肥を ●硫安10kg→葉の展開 ●田畑の大将(赤)10kg→花芽の栄養 真砂土や赤土では
[4~6月] 開花・肥大中の 調節	①[4月]開花前 ②[5月]開花後 ③[6月]肥大期	●花咲くCa液1000倍以上に薄めて灌水または葉面散布 ●根っ酵素1000倍液以上に薄めて灌水または葉面散布 ●花咲くCa液1000倍以上に薄めて灌水または葉面散布
[6月中下旬] 収穫開始前 20日頃 実肥	果実肥大と、 樹勢の維持 ※葉にクロロシスが 出た場合はマンゾ ク粒状10kg	●硫安5kg ●田畑の大将(赤)5kg ただし痩せた砂土の場合、5~7月(3回) ※上記2つを同時施用する。樹勢によって施用量を調節する事。 硫安(チッソ)を10kg(以上)施したい場合は、ラクトバチルス300gを混 用する事。ECが上らずにすむ。 ※土壌EC:0.2以下(施肥後も0.2以下)、pH:5.5以下である事。
[7~9月] 収穫中の調節	果実成熟、花芽分化 (灌水時に使用)	●根っ酵素1000倍液以上(肥大が弱く、樹勢が衰弱している時) ●花咲くCa液1000倍以上(成熟(糖度12度)が遅く徒長気味の時)

※上記は関東以南のラビットアイ・ブルーベリー、またはラビットアイを台木とするハイブッシュの施肥例。長野以北のハイブッシュ・ブルーベリーは生食用として品質が良く、早熟で、耐寒性だが、樹勢が弱く、根が浅く、特に土壌適応性が狭いので注意。

※ブルーベリーに好適な土壌条件は、地下水位50cm程で常に水分が保たれて乾燥せず、土層は滞水せず通気が良い事。砂質か黒ボク土壌が適し、有機質に富むこと(10%程度)。重粘土質では有機物の投入と敷きワラ(有機物マルチ)が必須。酸性を好むので、植付け前にも、もし土壌pHが6.0前後と高すぎる場合は、イオウ粉末を(1アール当り)、砂地なら2kg、壤土なら5kg散布すれば土壌pHは大体0.5低下する。また、ピートモスを1本当り20ℓ程度、植え穴の土とよく混和して、20日以上おいて落ち着かせ、pH:4.5(～5.5)とする。(植付け後は、春に温度が上がる芽出し肥時に、イオウ粉末によるpH調節が行われるが、これは根を傷めやすく、危険。土も傷むので、少量ずつ分施するが、使用しない方が良い。)

※ブルーベリーの根は根毛が無く、先端が極めて細い異常な根で、養水分の吸収力は通常作物の1/10程度と言われる。敷きワラ部分と、20cm深まで広がる繊維根や細根のスポンジ層が養水分吸収の主役であり、(ラビットアイでは)更に深い根もあるが、根の2/3は40cm深まで止まる。ただし土の通気性が良くなると、1mより深い土中にも細根が張る。土壌EC:0.3以上になると、根は高濃度障害を起すので、施肥時にラクト・バチルスを混用する事が大切。